



「デコレータークラブ・衝動とその周辺にあるもの」 木材・塗料 / 7500 mm x 9000 mm ・大洋荘・福岡市東区大岳・2017

デコレータークラブ
衝動とその周辺にあるもの
*Impulse and things around
Decorator Crab*

高松アーティスト・イン・レジデンス 2017 成果展

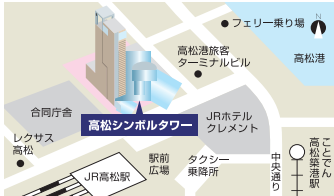
飯川雄大 Takehiro Iikawa

2017.12.14 木 - 12.25 月 高松シンボルタワー・マリタイムプラザ高松 2F | 会期中無休・入場無料

飯川雄大
Takehiro Iikawa

2017.12.14木 - 12.25月
12:00 - 18:00

高松シンボルタワー /
マリタイムプラザ高松 2F
会期中無休・入場無料



JR高松駅から徒歩約3分
ことん高松築港駅から徒歩約5分
高松空港からリムジンバス JR高松駅行きて約40分
高松港フェリー乗り場から徒歩約5分

アーティストトーク1

『衝動とその周辺にあるもの』
2017年12月16日(土) 16:30-18:00
聞き手: 正路佐知子(福岡市美術館 学芸員)
参加費無料、定員30名、予約不要

ワークショップ (対象:小学生以上)

『シンボルタワーで四コマ漫画を描くぞ!』
2017年12月17日(日) 13:30-16:30
講師: 甘利彩子(こえび隊)、飯川雄大(アーティスト)
内容: オリジナルの四コマ特訓ブックを使って、奇想天外な四コマ目を考えよう! 絵が下手くばりでも大丈夫! 飛び入り参加大歓迎、親子での参加もOK。
持ち物: 鉛筆、消しゴム
参加費無料、予約不要、所用時間 30分~

アーティストトーク2

『デコレータークラブの話』
2017年12月24日(日) 16:00-17:30
聞き手: 森本アリ(音楽家・旧グッゲンハイム邸管理人)
参加費無料、定員30名、予約不要

アーティストプロフィール

飯川 雄大 (いいかわたけひろ)

1981年兵庫県生まれ。成安造形大学 芸術学部 情報デザイン学科ビデオクラス卒業。主な展覧会に「ひとりとはみんなのために」(アンテルーム京都・京都・2016)、『遭遇するとき-Happening Upon-』(滋賀県立近代美術館・滋賀・2013)、『デコレータークラブ-衝動とその周辺にあるもの-』(広島市現代美術館「どこでも企画公募2017展-高松格賞受賞」)など。
Web: www.takehiroikawa.com

ゲストプロフィール

甘利 彩子 (あまりあやこ)

瀬戸内国際芸術祭ボランティアサポーター「こえび隊」事務局、NPO法人瀬戸内こえびネットワーク事務局。日々たくさんのこえびと一緒に鳥たを飛び回っています! 月間鳥キッチン新聞 4コマ漫画担当。完全予約制の古本屋「なす書」(高松市瓦町)もやっています。

正路 佐知子 (しょうじさちこ)

福岡市美術館学芸員。岡山県生まれ。川崎市市民ミュージアムを経て、2007年10月より現職。主な企画に、「第9回 21世紀の作家-福岡 大浦こころ展やわらかな圧力」(2011)、『福岡現代美術クロニクル 1970-2000』(2013)、『田部光子展』(2013)、『想像しなおい』(2014)、『更紗の時代』(2014)、『歴史する! Doing history!』(2016)がある。

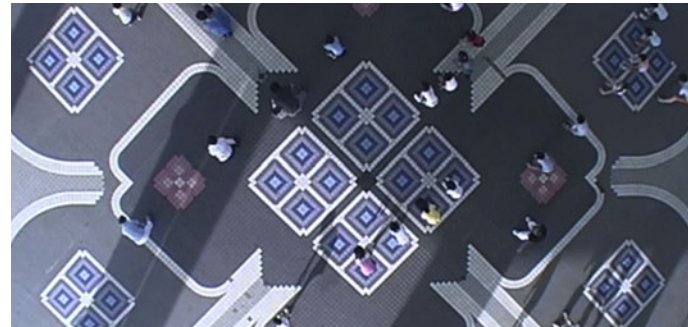
森本 アリ (もりもとあり)

音楽家・旧グッゲンハイム邸管理人。神戸の塩屋を拠点に「しおさい」や「しおや歩き回り音楽会」の実行委員としてまちづくりを行なう。三田村管打回、ペド・グ、カメラ・エレクトリック、ロハドなどのバンド、ユニットを率いる他、ソロ活動やワークショップ等も行う。2017年「旧グッゲンハイム邸物語」と「塩屋借景」を刊行。

デコレータークラブ 衝動とその周辺にあるもの Impulse and things around Decorator Crab

高松アーティスト・イン・レジデンス 2017 成果展

飯川雄大は時間の相対性や人間の知覚のゆらぎなどをテーマとし、映像、写真、立体などを用いた作品制作で精力的に活動しています。これまで飯川は街の風景を24時間定点撮影した作品や、サッカーのゴールキーパーだけを映した作品など、執拗な眼差しの集積による制作をしてきました。他愛のない風景や周縁にあるものを注意深く観察することによって、日常から見過ごされているものを掘り上げ、中心をずらした世界を差し出そうとします。



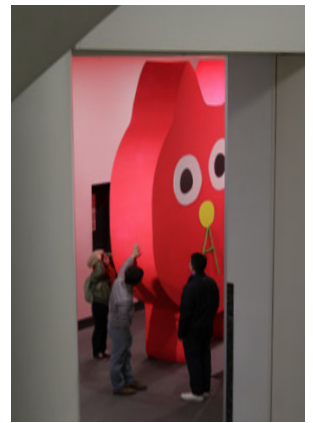
時の演習用時計・The clock for practice of time・"Univer Dome" (神戸市西区学園都市) 24時間ループ・ビデオステル・2006

本展で発表される《デコレータークラブ-衝動とその周辺にあるもの-》もまた撮影行為と動機の外縁に目を向けた作品です。飯川により「被写体」として設定された装置によって、鑑賞者は撮影の衝動を喚起される一方、見たものを記録し尽くすことができないということを目の当たりにします。私たちが何かを見て、人に伝えるため、あるいは記憶するために撮影する時、その時の衝動は写真に同じように写し取られているでしょうか。一見ユーモラスな装置はそこで「写真から欠落していくものは何か」ということに再考を促し、私たちが一人の観察者/伝達者であることに気づきをもたらします。



「デコレータークラブ-衝動とその周辺にあるもの-」設置風景・塩屋東町市民公園・神戸・2015

デコレータークラブとは海藻など身の回りにあるもので自らを装飾して擬態する蟹のことで、すべての蟹が異なる見た目を持っています。飯川は長年に亘り、この蟹を衝動にまつわるモチーフとして様々なプロジェクトを行ってきました。今回の展示では装置や映像、写真などの周縁を重ねた作品を通して、衝動の本質とは何か、共有の欲求と眼差しの共有不可能性を複合的に提示しながら、その別の可能性について問いかけます。そして、私たちの世界が周縁の集積によってできているということに触れる時、私たちの視線は複層的な広がりを持ち、また共有したいという願いを繰り返すのかもしれない。《デコレータークラブ》の高松での現在形をぜひご覧ください。



デコレータークラブ-衝動とその周辺にあるもの
木・蛍光塗料 / 4000 mm x 5400 mm
広島市現代美術館「どこでも企画公募」・2017



DECORATOR CRAB "Near the Weed" on Awaji Island
インクジェットプリント / 420 mm x 560 mm
2012



秘密の枠-Secret Frames-
ビデオインスタレーション / 18分
成安造形大学【キャンパスが美術館】-滋賀・2014



ウィニングポジションカード
デジタルプリント / 62 mm x 92 mm
2016